

力亭應賀作

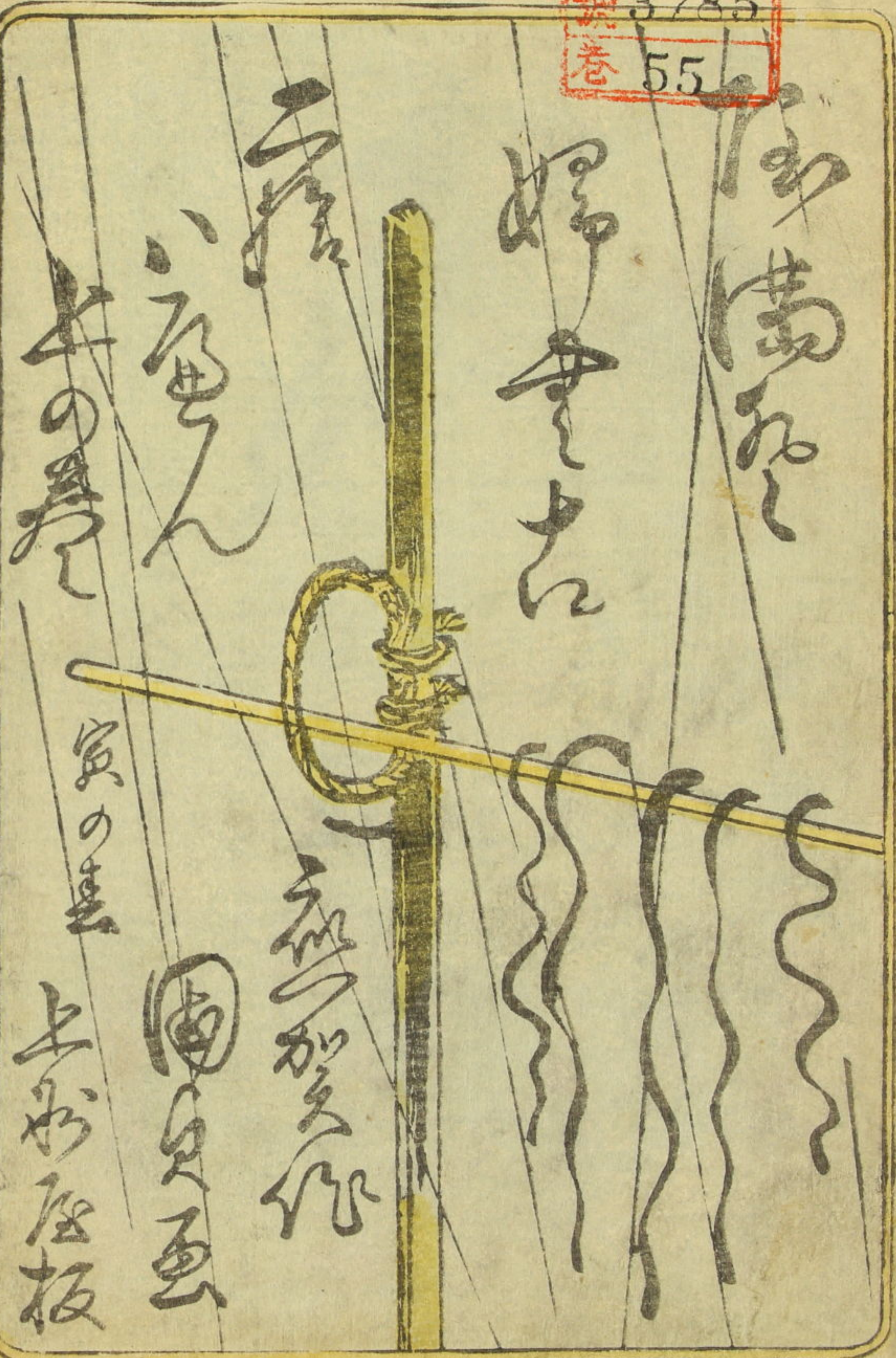
外題

上

~ 13
3785
55



門へ13
3785
巻55



釋迦八相倭文庫二拾八編叙

夫妄語の五戒の一也第一の慎むべしとるりされども又廣大なる世の
寶ともいふべしや什麼世尊出山まゝして直小三畏唯一心の道理とて
切衆生を度せんが為小先華嚴と説きと聲聞縁覺の啞龍等の如く所
花の根未熟を余まゝる方便の花と咲せて后小法華小實せられ復
武士道不謀計あり是へ嘘とて敵を圍り逆討て國を治又商人小武
直あり此も虚言とて渡世に妻子を養ひ家を存況画工の繪嘘説家
の不断の虚言も或は活計或は又勸善懲惡の一端るりさるる言善
ふよれは直言不勝る徳ありまゝるる方便を述るとル也

嘉永七甲寅年正月吉日 万亭應賀誌



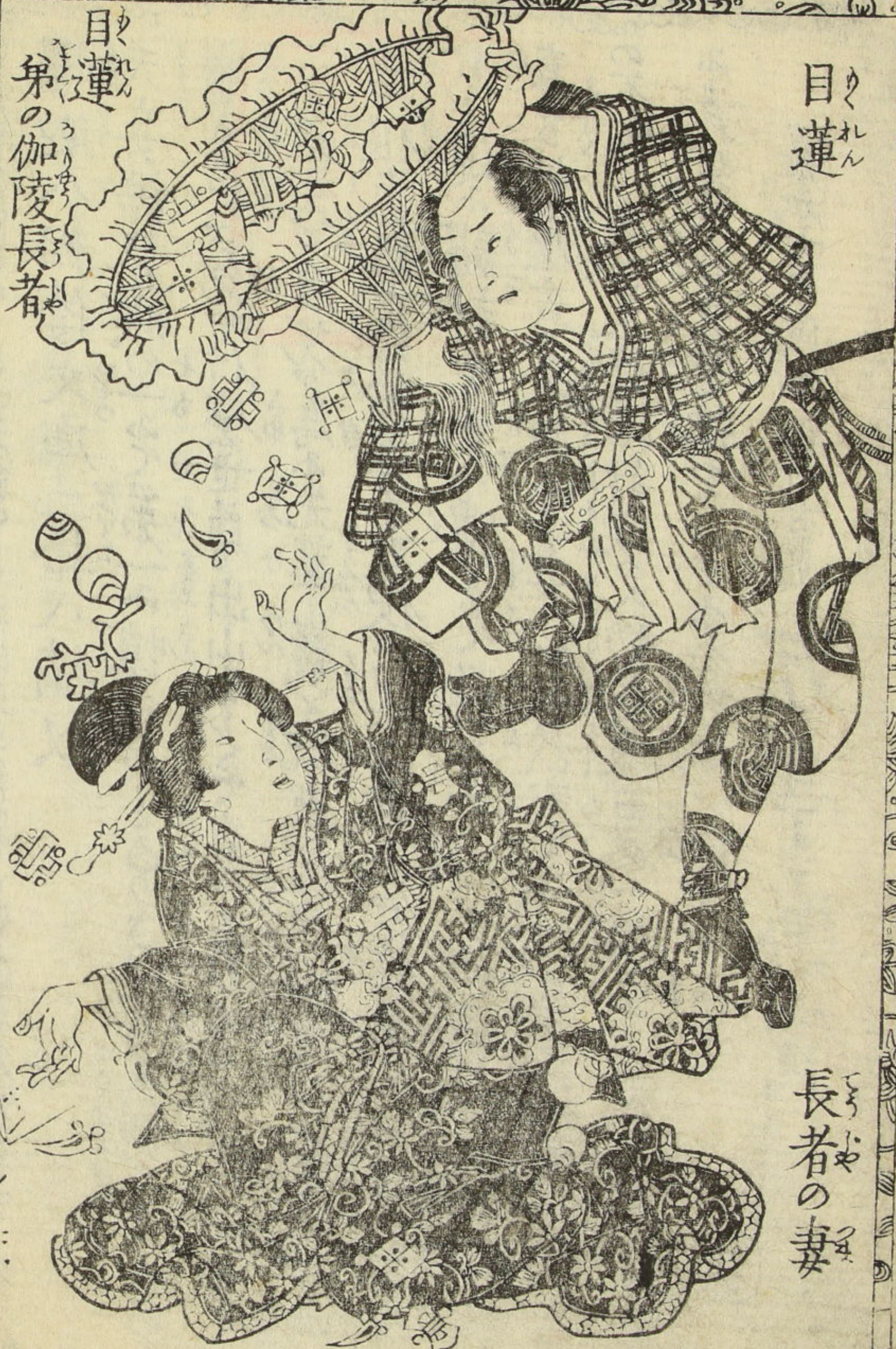
安陸



加
長
者

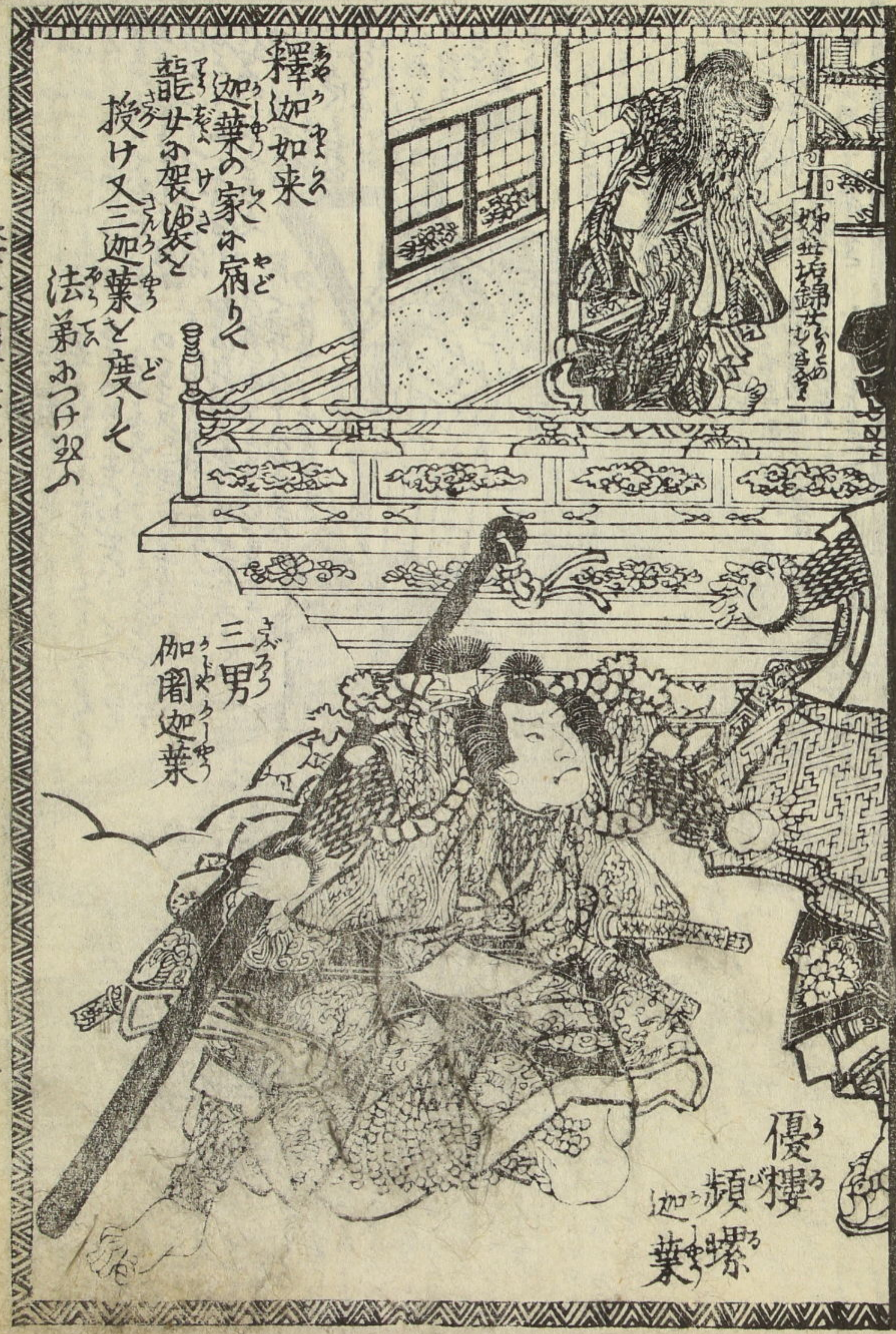
悵惱るが故おまご大神おん通とかかと
安陸あんとく酒さけ壺ひょうと碎くだて
五戒ごがいを示しま

目蓮



長者の妻

目蓮
弟の加陵長者







水戸八景七



水戸八景七

